

第3学年 国語科指導案

日 時 11月16日(火)5校時
場 所 留萌市立緑丘小学校 3 松
児 童 3年松組 24名
指導者 教諭 豊 崎 東 洋

1 単元名 身近な話題をとらえて話し合おう (全18時間)

「くらしと絵文字」(8時間)

2 児童の実態

国語を苦手としている児童が多い。読むことを苦手としている児童も多い。そのため漢字にふりがなをふらせたり、言葉の意味を理解させ文節に区切ったりすることが必要な子も数名いる。

読み取ったことを言葉で伝えることを苦手としている児童が多く、全体の中では、特定の児童ばかりが発言してしまうことが多い。はっきりと答えがわかるもの、絵や写真を見て知っていることや気付いたことには積極的に発表を行うようになってきている。

教科書の文章の内容をだいたい読み取ることができる。しかし、大事な部分を読み落としてしまう児童や指示語がどこの文を指しているのかを見つけるのを苦手としている児童が多い。

3 単元について

子どもたちは、二年生で「きつつき」や「おもちゃ大会を開こう」という単元を通して、全体と部分の関係を考えながら順序を意識して読んだり、話したりすることを学習してきた。

本単元は、その流れを受けてまとまりごとに大事なことを正確に読んだり書いたりすることを目的とし、絵文字という題材を中心に文章構成をふまえて内容を的確に読み取るための説明文教材と、まとまりを考え、筋道を立てて話したり、話の中心に気をつけて聞いたりする音声言語の教材を通して、論理的な思考力・言語能力を高めることを意図した構成となっている。

「くらしと絵文字」では、絵文字とはどういうものなのか、絵文字の特長とは何か、絵文字はこれからどのように活用されていくのかが書かれている。「絵文字」という言葉自体は、子どもたちの中で浸透しているとはいえないが、実際の生活の中で、絵文字を目にしていることは多い。そこで、子どもたちが意欲的に文章の読み取りを行うことを目指し、絵文字を身の回りから見つける活動を行った後「学校に必要な絵(絵文字)をつくる」ということを先に行う。そのことにより「くらしと絵文字」で読み取ったことが、自分のつくった絵文字の検証につながっていくという目的意識をもつことができるとともに「絵文字発表会」へ向けての自信へとつながっていく。また、文章の読みとりを確実にを行うために、それぞれの特長を学習した後に、教師の提示した「特長のない絵文字」を改良していくという活動を行う。その活動を通して、絵文字が時代を超えて使われている理由をしっかりと読みとらせていく。さらに、次への活動への見通しをもつことができるように3つの特長の学習展開を同じにしていく。授業を重ねていくごとに積極的に活動を進めていけるようにするとともに、最後に行う「絵文字発表会」へ向けて「自分の絵文字を特長に併せて見直していく」という活動を一人一人が進めていけるようにつなげていきたい。

4 研究の視点

(1) 学習過程の工夫について

単元構成の中で、最初に学校に必要な絵（絵文字）をつくるということを設定した。それは、その後の説明文をただ読むのではなく、読み終わった後に自分のつくった絵（絵文字）がその特長としっかり合致しているかを確かめるという目的をもたせた読みをすることで、内容理解を確実にするためである。そのようにすることで主体的な読みをおこなうことができるとともに、読み取ったことを活用することにつながっていく。

本時では、説明文の文章構成がどのようになっているかを知り、特長→具体例の型を学習する。そして、特長がない「先生の絵文字をつくり直す」という活動を行う。説明文で読み取った絵文字の特長に合わせて見直し、同じ土台に立った上で全体交流を行うことで、特長についての読み取りを確実にしていく。

また、その活動が最後に行う自分の絵（絵文字）を特長にあわせてつくり直していくことにつながり、より特長を意識した絵文字をつくろうという意欲化につながる。

(2) 言語活動の充実について

本単元では、説明文で学んだことを基に絵文字発表会を行う。発表会に向けて、スピーチメモを作成し、自分がどの特長を意識して絵文字をつくったかをその中に書く。絵文字の特長と自分の作品との合致点を言語化し、発表することにより、学び取った内容を活用していったことがより明確になっていく。

本時では、特長を理解した後に教師のつくった絵文字をどのように変えていけばよいかを考える場を設定した。学んだことを活用し、「走ってる 2 人の子がぶつかるような絵にしたらいい」や「走っている絵に赤で×にしたらいい」など自分の考えを言語化する。特長との合致を意識づけるために「見たしゅん間に～分かるように」という発表の型をつくり、交流できるようにした。一人一人が絵文字をつくり直し、自分がどのように直したかを発表させることで、説明文の内容の理解を深めていく。

(3) 学習意欲を高める工夫について

本単元では、「学校に必要な絵をつくる」という身近なことを題材にし、さらにつくった絵文字を委員会に提案していくことを学習の導入の段階で確認する。自分の学校生活を振り返ることで絵（絵文字）を抵抗なくつくるができるとともに、自分のつくった絵文字を掲示してもらえるように提案していくという目的意識をもたせることで、より良いものをつくり上げていこうという意欲を高める。「学校に必要な絵をつくる」という最終目標となる課題提示を学習意欲の柱にし、説明文の学習に対する意欲を同時に高めていく。

本時では、課題を「絵文字の特長を読み取ろう」とした。どのような点に注意して読み進めていけばよいかを明確に意識付けることを大切にしたい。文章の中から必要な文を見つけ出すだけでなく、その意味が実感できることで、子どもたちの「分かった。」という思いを積み重ねていくことができる。

また、活用の段階では、第一の特長のまとめとは明らかに「ずれ」がある絵文字を見せる。読み取ったこととは違うものを提示されることで、学習意欲が刺激され、「ちがう！ こうしたらよい！」という発言が生まれてくる。絵を改良することが読み取りを確実にするとともに、学習意欲の向上へとつながるようにしていく。

5 目 標

【関心・意欲・態度】

- ・身の回りから絵文字を見つけ表現していることを考えようとしている。
- ・絵文字の特長を読み取り自分の作品に生かそうとしている。

【話すこと・聞くこと】

- ・伝えたいことを選び、自分の考えが分かるように筋道を立てて、相手や目的に応じた適切な言葉遣いで話すことができる。

【読むこと】

- ・文章や段落ごとの関係から、絵文字の特長や役割を考えながら読むことができる。
- ・目的に応じて内容を大きくまとめ、必要なところは細かい点に注意しながら読むことができる。

6 指導計画

	主の学習活動と児童の様子◎・支援☆	【評価規準】と視点
つ か む 5 時 間	◎新出漢字の学習 ◎わからない言葉を辞書を使って調べる。 ◎色々な絵はどこにあるだろう ◎教科書の写真をもとに知っていることを話し合う。 ◎いろいろな場所に絵が使われている ◎身近にある絵を見つける ◎見つけてきた絵をしょうかいしよう ◎身近にある絵を紹介する。 ☆集めてきた絵を説明することによって、話す活動を行いながら次の説明文への意欲を高める。 ◎いろいろな場所にいろいろな絵がある ◎学校に必要な絵をかこう ◎絵をつくる計画を立てる。 ☆どこに必要か、どんなのが必要かを考えさせる。 ◎学校にあるといい絵を考える。 ☆自分のつくった絵を委員会に提案することで意欲をもたせて取り組ませる。	【関・意・態】 身の回りから絵文字を見つけ表現していることを考えようとしている。(行動観察・発言)
		視点1 これからの学習に対する意欲化
		視点3 身近な題材の設定
追 究 す る	◎絵文字について知ろう ◎全文を読む。 ◎全文を小段落に分ける ☆1字下がりのところが分けるヒントになることを伝える。 ◎くらしと絵文字の小段落①～③を読む ☆写真や図と本文を対応させながら読み取らせる。	

☆「このように」という指示語の指す内容をおさえる。

つたえたいことを色と形にして、見ただけでわかるようにした記号を絵文字という

8
時
間

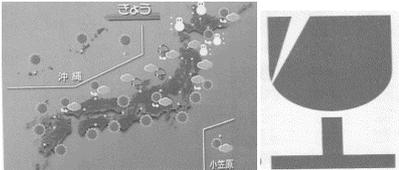
昔から絵文字は使われ、時代をこえて多くの人々の暮らしに役立ってきた。
げんざい、私たちの毎日の暮らしの中には、たくさん絵文字が使われている。

本時

- ◎小段落4を読む
- ◎特長の意味を確認する

絵文字の特長を読み取ろう。

- ◎小段落5・6を音読し、絵文字の特長を読み取る。



☆教科書の挿絵と比較しながら特長についての理解を深めさせる。

視点1
目的をもった読み
活用していくための読み

特長一

その絵を見たしゅん間にその意味がわかる。

先生の絵文字

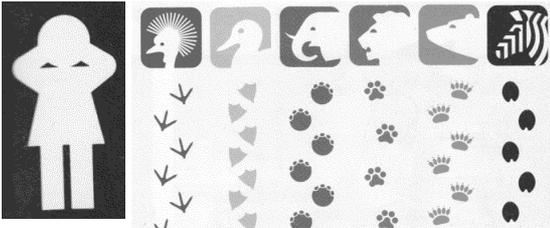
- ◎教師がつくった違和感のある絵文字をどのように直したらよいか交流する。

- ◎一人一人特長にあわせた絵文字につくり直す。
- ◎つくり直した絵文字を発表する。

- ◎絵文字の特長一を確認する。

絵文字の第二の特長を読み取ろう

- ◎小段落7～9を読み取る。



☆教科書の挿絵と比較しながら特長についての理解を深めさせる。

視点2
言語化による
特長の意識化

視点1
目的をもった読み
活用していくための読み

【読むこと】

文章や段落ごとの関係から、絵文字の特長や役割を考えながら読むことができる。(発表)

特長二

つたえる相手に親しみや楽しさを感じさせる

先生の絵文字

◎教師がつくった違和感のある絵文字をどのように直したらよいか交流する。

- ◎一人一人特長にあわせた絵文字につくり直す。
- ◎つくり直した絵文字を発表する。

◎特長一・二を確認する。

絵文字の第三の特長を読みとろう

◎小段落⑩～⑫を読み取る。



☆教科書の挿絵と比較しながら特長についての理解を深めさせる。

特長三

その意味が言葉や年れいなどのちがいをこえてわかる。

先生の絵文字

◎教師がつくった違和感のある絵文字をどのように直したらよいか交流する。

- ◎一人一人特長にあわせた絵文字につくり直す。
- ◎つくり直した絵文字を発表する。

絵文字のはたしているやくわりを読み取ろう

絵文字は、くらしを便利で楽しく、安全にするだけでなく、世界じゅうの人々がもっとわかり合い、つながりを深め合うのにも役立つ。

「くらしと絵文字」を内容にあわせて大きなまとまりに分けよう。

☆小段落の内容とつながりをもとに考えさせる。

「くらしと絵文字は」内容で3つの大きなまとまりに分けることができる。

3つの大きなまとまりごとに大事なことを読み取ろう。

視点2
言語化による
特長の意識化

視点1
目的をもった読み
活用していくための読み

【読むこと】

文章や段落ごとの関係から絵文字の特長や役割を考えながら読むことができる。(発表)

視点2
言語化による
特長の意識化

	<p>絵文字は3つの特長があり，そのことにより昔から今にいたるまでわたしたちの暮らしの中にたくさん使われている。そして，これからは世界中の人々がもっとわかり合い，つながりを深め合うのにも役立っていく。</p>	
ま と め 5 時 間	<p>今までの見直しをさんこうにして絵文字をつくりなおそう。</p> <p>◎特長1～3をもとに自分のつくった絵文字を見直す。 ☆どのように直すかを考えさせる。そのままいいという場合は，その理由を考えさせる。 ◎小グループで評価を行いアドバイスをしあう。 ◎見直し点をもとに新たに絵文字をつくりなおす。</p> <p>絵文字発表会をしよう</p> <p>◎発表会へ向けてスピーチメモを作る。 ◎スピーチメモをもとに自分の絵文字を発表する。 ◎発表を聞きながら聞き取りカードに意見を書く</p>	<p>視点3 目的意識をもった 絵文字の作成</p> <p>【関・意・態】 絵文字の特長から作品を見直し，つくろうとしている。(ワークシート)</p> <p>【話・聞】 伝えたいことを選び，自分の考えが分かるように筋道を立てて，相手や目的に応じた。適切な言葉遣いで話すことができる。 (発表・聞き取りカード)</p>

7 本時の実際

(1) 本時の目標

- 絵文字の特長や役割を考えながら読みとり，活用することができる。

(読むこと)

(2) 本時の展開 (8 / 18)

	児 童 の 活 動	【評価規準】と視点，支援○
導 入 5	<p>前時の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・つたえたいことを色と形にして，見ただけでわかるようにした記号を絵文字という ・昔から絵文字は使われていた。 ・今では，わたしたちの暮らしの中に絵文字はたくさん使われている。 	<p>○掲示物をもとに前時の振り返りを行う。</p>

- ◎小段落④を読む（代表読み）
- ◎絵文字が使われている理由を絵文字の特長から考えていく。
- ◎特長の意味を確認する。
 - ・よいところ
 - ・すぐれているところ

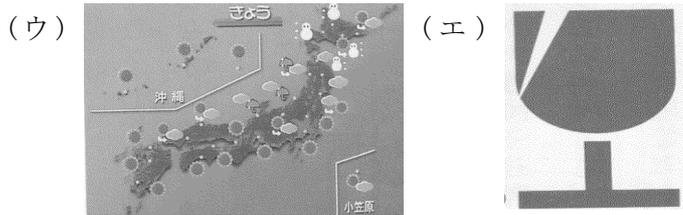
- 絵文字の特長から絵文字が使われている理由を考えていくことを確認する。
- 辞書で調べていたことを確認する。

展
開

15

絵文字の特長を読み取ろう

- ◎小段落⑤・⑥を読む。（全員読み・代表読み）
- ◎⑤段落に書かれている絵文字の第1の特長を確認する。
 - ・その絵を見たしゅん間にその意味がわかる。
- ◎特長一を二つの絵文字の例から確認する。



- ・(ウ)には、地図と、天気マークが描かれている。
- ・(エ)には、コップとわれたあとが描かれている。
- ・地図の絵が P48L3 の「それぞれの地方」
天気マークが P48L3 の「天気予ほう」の言葉に対応していることに気づく。
- ・コップの絵が P48L5 の「こわれやすい物」
われたあとが P48L6 の「取りあつかいに注意」の言葉に対応していることに気づく
- ◎取り替えた絵の印象を発表する。
 - ・ごちゃごちゃして見にくい。
 - ・魚や船は関係ないからいらぬ。
 - ・コップの模様はいらぬ。

- ◎絵文字の特長一のまとめをする

絵文字は、見たしゅん間に意味が分かる

- ◎見た瞬間に意味が分かるという内容を確認する。
 - ・絵はごちゃごちゃしていないこと。
 - ・かんたんにかかれていること。
 - ・かんけない物は、かいていないこと。
- ◎見た瞬間に意味が分かるからたくさんの絵文字が使われていることを確認する。

視点3 課題設定の工夫

目的をもった読みになるような課題を設定する。

- 絵を見て気付いたことを自由に発表させる。

- 教科書の文に線を引かせ、絵文字と対比させながら特長への理解を深めていく。

- 細かく地名が載っている地図に海には魚や船が描かれていたりコップに模様があったりする絵と取り替える。

【読むこと】

☆絵文字の特長や役割を考えながら、読み取ることができたか。

- 「見た瞬間にわかる」ということがどうしたことなのか整理する。

- ④段落の問いの文と対応させて確認させる。

ま
と
め

5



◎教師の作った絵文字がどんな意味か考える。

- ・なかよく遊ぼうかな。
- ・楽しく遊ぼうかな。

◎「走ってはいけません」だという意味だったことを確認する。

- ・それじゃあ、わからないよ
- ・ごちゃごちゃたくさんかかないほうがいい。
- ・走っている人のかんたんにかいたほうがいい。

◎話し合ったことをもとに絵文字をつくり直す。

◎つくり直した絵文字を発表する。



見たしゅん間に走ったらだめだということがわかるように

- ・ぼくは、走っている人だけをかいてそこにだめだということがわかるように赤で×をつけました



見たしゅん間に走ったらだめだということがわかるように

- ・わたしは、走ったらぶつかる絵文字をつくりました。さらに☆をつけてぶつかっているいることがわかるようにしました。

○教師のつくった絵文字を貼る。

視点1 習得から活用へ

特長に合わせてどのようにするか考え、それを元に絵文字をつくり直す。

○個人ごとに作り直させる。手が進まない子には、走っている姿の切り絵を渡す。

○言語化への手助けとなるように発表の前段の部分を共通にする。

視点2 言語化

絵文字だけではなく、どのように直したのか文章でも書く。

○発表は、ビデオカメラを使いテレビに映し出して行う。

【読むこと】

☆読み取ったことを活用することができたか。